

# 今、何の病気が流行しているか！

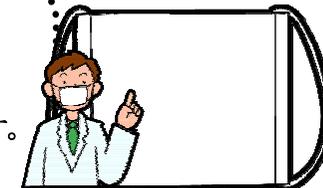
【感染症発生動向調査事業から】



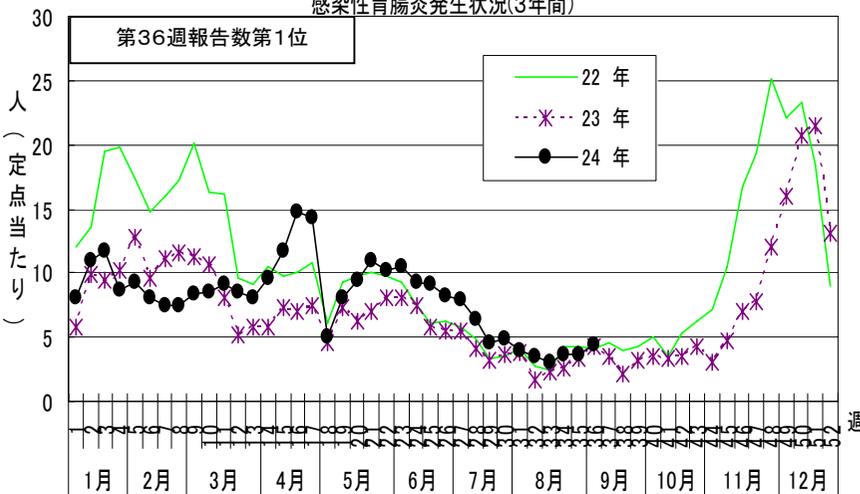
KAWASAKI CITY

平成24年9月3日（月）～9月9日（日）〔平成24年第36週〕の感染症発生状況

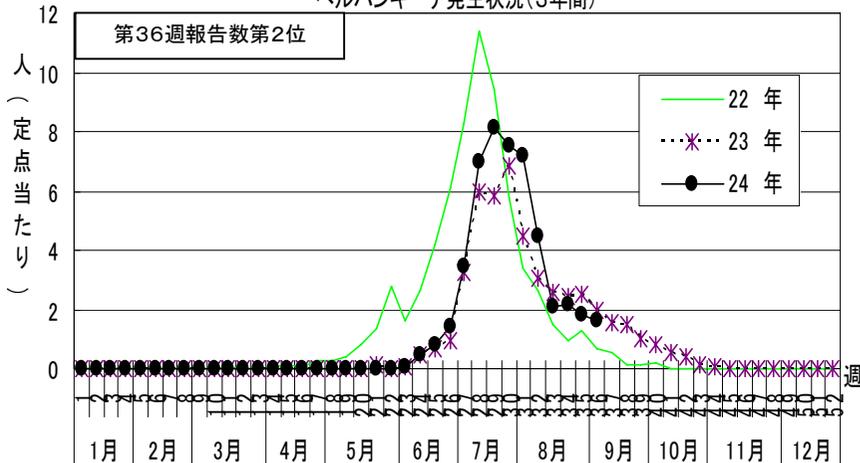
第36週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり4.39人と前週（3.59）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.24人と前週（0.78）より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が3件、腸管出血性大腸菌感染症の届出が1件（推定感染経路：経口感染、推定感染地域：日本）ありました。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



## 「RSウイルス感染症」～秋から冬に向けて流行する感染症～

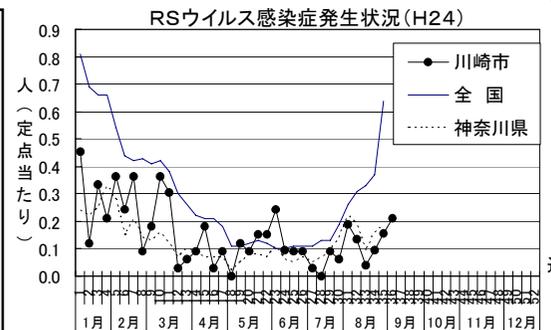
RSウイルス感染症は、名前のおりRSウイルスを原因とする呼吸器の感染症で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染します。8月以降、全国的に過去最多(平成15年のデータ収集開始以降)のペースで報告数が増加しており、例年12月頃に流行のピークを迎えますので、今後注意が必要です。

### RSウイルス感染症ってどんな症状？

潜伏期間は2～8日で、発熱、鼻汁などの風邪様症状が出ます。また、乳児患者の10～40%が細気管支炎や肺炎など下気道炎を起こすといわれています。さらに、心臓や肺に基礎疾患がある小児においては、重症化するリスクが高くなりますので注意が必要です。

### どういったことに注意すればいいの？

患者の鼻水や咳などから感染するので、手洗いの徹底やマスク着用などの「咳エチケット」を心がけることが大切です。  
 また、流行期（特に12月）に乳幼児を連れて外出する際には、人ごみを避けましょう。



上のグラフのとおり、全国的に報告数が増加しています。地域別では、九州地方や沖縄県で報告数が多くなっています。